

長野県最古の焼物の里「相道寺」地域（陶土の里）の山動く

2010/5/24~26 長野県議会議員 宮澤敏文

○ 2010年5月24日

午前1時深夜

新緑がそれぞれ異なった濃淡で重なる「花と陶芸の里」北安曇郡池田町相道寺地域の東山地区に4月末から設置されていた地すべりの探査機のけたたましい警報が当たりに響いた。4mm/hを越え斜面が大きく動いたのである。

5:45 犀川砂防事務所松本所長から現状を知らせる一報が携帯に入った。早速現地に直行、池田町役場の職員と砂防事務所が応急対応を依頼していた大町市に本社を構える北陽建設が現状の警戒態勢をひいていた。6時50分長野県建設部砂防課長からも心配する電話を頂く。地すべりの怖さを知っている人たちだけに絆が強い。

山の傾斜斜面に入り、時間をかけ、足の裏を目にし耳にして現状をチェックしてまわる。4月末から動き続けていた傾斜面で、生活道路である町道から約60m上部に40cmほどの裂け目を発見、横への広がりが見える。樹齢60年は越えるだろう赤松が大きく倒れ掛かっているものもいくつか確認する。北陽建設のこの地域出身の地すべり工事の専門家である宮澤常務が下から上がってきた。二人で再度現状チェックをしながら、災害の大きさ、現状を把握する。

すべり面への負荷を軽くすることが大切と判断し、早速北安曇地方事務所中村林務課長に連絡、至急現場に向かっていた。警報機は町防災担当の総務課長判断で地元と了解を得、ストップしていたが、心配顔で相道寺地区の宮澤自治会長始め周辺の方が自然に集まり大きな輪ができる。

「今すぐに家財や人命に被害が出る状況ではないと思われるが、まずは現状を住民に説明することが大事」と思い自治会長さんと相談し、池田町役場総務課長から7時30分地元集落センターに集まっていた。指示をお願いした。心配なことに雨足は激しくなってきた。

7:30 お年寄りや朝の子ども達の食事の準備などあわただしい中で、不安げに次々と集まってこられる住民の皆さん、長野県からは犀川砂防事務所砂防課長、北安曇地方事務所林務課長、池田町からは防災担当の総務課長、建設水道課長、振興課長ほか関係職員が20名ほどの住民を囲んだ。現状の報告の後、町防災担当からは「避難勧告」が二度にわたって出された。

行政関係者だけ残り、本日の作業実態を打ち合わせの上、本日 19:00 集落全体に状況説明の会を実施することを決め散会とした。雨は一層激しくなっている。心配だ。

作業服長靴のまま、小谷村・白馬村を管轄する姫川砂防事務所の今年度工事と来年度の予定箇所をくまなく雨の中視察し、小谷村商工会の総会に出席する。途中何度も松本犀川砂防事務所長から応急対応の実施状況の報告が入り、18:00 から県関係者での工事説明の仕方を県民クラブ大北事務所で実施することとする。

姫川砂防事務所小宮山所長以下職員の誠実な事業対応に感心しながら、降り続く雨が気になって仕方がない。大町建設事務所砂防事務所から降水量のゲーターを受け取る。梅池高原は 180mm/h を越えている。池田町は 76mm/h である。

災害を思うとき私の原点は平成 7 年 7 月 11 日の豪雨災害だ。あの時は本当に大変だった。村の道路という道路は寸断され、家は鉄砲水と土石流に流された。あれだけの災害で隣近所の絆で未然に対応し、一人の犠牲者も出さなかった小谷村の皆さんのすごさを改めて思う。

18:00 小谷村からぎりぎり飛びつけると県の関係職員が集まっておられた。みんな真剣そのものだ。緊張感をほぐして差し上げようと香りのソフトなコーヒーを入れて空気を和らげ早速説明の順序内容の検討に入る。砂防所長からは一番気がかりなことは「入札制度の変更で、工事内容が決まってから 30 日の公告することになっており、その間応急しか対応ができないことだ」不安げな発言。小谷から頂いた山菜を犀川砂防事務所の職員に陣中見舞いとしてプレゼントする。

19:00 相道寺集落センターには集落全体 43 戸で 60 名を超える住民とマスコミの方々、説明する役所の人で満員である。自らの家が地すべり現場の真下にあり、昨夜 1:00 の非難サイレンから心配で夜も眠れなかったのだろう頬がこけられ疲れ果てた宮澤自治会長さんの一声で説明会が始まった。

犀川砂防事務所 「地すべりの深さは、8m。粘土地質の中に雨水が入り、民家の上 60m に 40~50cm の亀裂が 30m 続いている測量地点 3 箇所 1.2cm/h.9mm/h.8mm/h と動いている。

非常に危険な状況で、5月の始めから斜面に横方向で40mの深さで10本入れている水抜き管からの出水は濁っている。慎重に現状をチェックしながら県砂防課と協議研究しているが、応急対応しかできないので、地すべりの末端部で110tのフレコンで押さえ、道路部分に230tのフレコンを並べ押さえた。本格工事をするために災害関連工事の申請をしている、明日国土交通省に資料をそろえていく準備をしている。今夜は砂防事務所が委託している北陽建設から2名現場で、県町はそれぞれの事務所で待機し24時間ゲーターを見守る体制をひく」と説明。

地方事務所林務課「傾斜地の表面を軽くするために傾いている木を切らせていただく、ご了解いただきたい。今日もパトロール中、直径50cmの松が根こそぎ倒れた」と説明。

池田町「現在4mm/hを大きく越えているのでサイレンは鳴りっぱなしになるので今はとめてあります。今晚あたりかなりの注意をお願いします」との説明が続いた。

住民「5月の始めから動き続けている。水抜き等すばやい対応に感謝する。さてこれ以上動いた場合の対策はどう考えているのか」

砂防事務所「今のところ緊急対応しかできず、方策はあまりない。本格工事は災害関連事業で対応するのが一番早くしっかりしたものができるので国と協議をしている。いまま犀川事務所では明日国土交通省と検討する新しい資料を作成中である」

住民「こうしている時も滑っている不安は並大抵のものではない。一刻も早く対応してほしい」

砂防事務所「お気持ちはよく理解しています。今回の対応はすこぶる早い対応だと思うし、地すべりの専門企業が当番企業でラッキーだった」

住民「30日も本格工事に入れないのではその間に山が動いて土砂が家を飲み込んだらどうするのか」

住民「老人も多いので非難する場合はどこがいいのか。また先ほど大町警察署長がこられ、第2次避難場所を明確にしたほうがいいのか。またこんな時こそ防災無線で対応できないのか」

池田町「防災無線は使ってほしい。そのために無線ボックスの鍵を自治会長にお渡ししてあるはずだが、(やり取りの中でまだ集落に鍵を渡していないことが判明)二次避難場所は町福祉会館となる」明日の状況は明朝7:00防災無線で報告することとなる。

住民「いつ崩れるかとにかく不安だ。このように状況説明をしていただき、誠にありがたい、県がどのように控除しているのか。また非難への対応など

はっきりしたので、わずかだが不安を解消できた。今後もタイムリーにこうした説明会を実施していただきたい」

各行政「了解しました。」

21:00 散会となる。雨の小ぶりとなってきた。

○ 5月25日

体中が痛い。5:30に起床し、現地へ向かう。北陽建設の社員が3名でパトロールをしている。さっそく出水の濁り具合をチェックする。まだ濁っている。山を登り亀裂の上部に入る。シートをもっと亀裂の周辺まで広くかけたほうがいいのかと指示し、いったい家に戻り朝食をとる。

9:30 再び現地へ。地方事務所所長が見え、ともに上部へ上る。亀裂は80cmに広がり、段差も拡大している。フレコン積みが始まる110tが並べられる。背広に着替え、商工会やシルバーさんの総会に出席、その最中、犀川砂防所長から本日の行動結果の打ち合わせを建設部長も出席するので17:00を16:30に変更してほしいとの連絡を受ける。

16:30 住民の皆さん20名と建設関係行政関係者のいる中に県建設部長が到着、私のほうから現状を報告する。既に部長はヒアリングを受けており、積極的な工事進行を発言する。上部まで視察し帰庁。現地も一定の落ち着きを取り戻した気がする。

○ 5月26日

6:00 起床。現地に向かう。だいぶ出水量が減ってきた。濁りもだいぶ取れてきている。周辺をチェックし北陽建設の宮澤さんと会う。この人の現場への執念に感心する。

自宅で朝食を済ませ、池田町役場で総務課長と打ち合わせ、4mm/hが下回ってきたので、避難勧告を解除するとのこと。一安心である。しかしまだ動いているわけだから油断はしてられない。

5.26.12:00 相道寺地区17軒の避難勧告解除

宮澤の独り言

- ① 動きが止まらないことが何より心配だ。
- ② 上部の水はまだ出てきている。下部を押しさえただけに、上部の水の処理への対応が必要であろう。
- ③ もうわずかで梅雨に入る粘土の層(7m~14m)中に雨水を入れないこと。その意味でも多量の雨に備えることを急がなければならない。

この時点での「地すべりから生活と命を守る」考察

1. 災害にはいろいろなタイプがある。今回のような地すべりは発生した時はもう最後であり、いかに全体が滑らないように手立てをするかにかかっている。今回のように 1 ヶ月前から兆候があり、現在も動き続けていて、その被害想定区域には 8 件を越える民家があるケースは崩れれば最後である。すばやい対応が必要であろう。
2. 「動きが止まらない」大変なことである。全国で多くの民家や福祉施設を飲み込んだ土石流のようにある程度の被害が既に発生した後の復旧事業と異なり、大地が静かに動いている地すべり事業においては、長野市の湯谷団地の例にあったように、「地すべりの災関の指定については、県はすばやく調査し資料を整え、国は一日も速く認可し決定し工事にかかるべきである。
3. 入札制度の変更で 30 日間は公告しなければならない。この間も動いており、工事規模も膨らむし、費用もかかる。もう一度対策案を見直さなければならない事態も想定される。臨機応変にする必要があるのではないか。公平性のみで判断はいかがなものか。火事場で助けを求めている人に、一定の防具をつけている人しか入れないのでなく、水をかぶって助けられるケースもあろう。例外のない法律はないのだから。
4. 長野県は里山が人の生活空間になっていた。急傾斜や森を切り開き、戦後の先人達は耕作し生活してきた。「尾根と沢」の中で汗してきたが、過疎化が始まり、森も沢も管理する人がいなくなって荒れる一方である。しかし一度崩れれば、下流域に影響し、道路も鉄道も遮断される、荒れる沢に最低一本の砂防堰堤は必ず必要である。
5. 「災害は大きく構えろ」長野県村井知事の言葉である。将にその通りだと思ふ。

○ 5月31日 15:00

町内スポーツ大会でプレーに応援にといい汗をかかれた住民の皆さんが集まってこられた。山が動いているだけに、表情は硬い。

宮澤自治会長の発声で報告会が始まった。犀川砂防事務所からは砂防課長と担当の女性職員から現状の報告がされた。小西君の説明は女性なので語り口は柔らかだが、工事内容の説明ははっきりしていてわかりやすい。

昨日 30 日犀川砂防事務所の所長らと県議会県民クラブ大北事務所で報告を受け、方針を確認した内容をしっかり住民の皆さんに伝えている。

住民「今崩れる可能性が高いのはどの地域か」

砂防事務所「亀裂面が入っている箇所より上部の墓地公園道路下からの可能性が高い」

住民「一昨年崩れた箇所の状態はどうか」

宮澤県議「前回の工事は林務工事で本日林務関係者はいないので私の知る限りを話しますが、設置構造物状況からみて、今は動いていない状況だと判断できます。前回も墓地公園横から崩れが始まっています。やはり工事をして対策をすると動きは止まると思います。

住民「工事をした後公園にでもして、町民の憩いの場として残していただければと思うが」

池田町「林務予算でも考えられればそうしたい」

宮澤県議「プランは町で考えることだが、予算執行上は今、挙げて砂防で対策しているのだから、砂防事業の大切さを知る空間になるといいと思う」

「NHKで全国放送されているのにどうなっているのかわからないでいる」そんな声が集落を包んでいただけに、応急工事が進む一週間でまたいでの説明会は住民の皆さんの関心を増す雰囲気の中で終わった。

終了後、同じ集落に住む災害現場から離れた地域の住民が連れ立って現場の視察に入る人が何人もいた。

宮澤の独り言

「あまり住民に話すと不安がるのではないかと町の職員から言われたと所長は話したが、それは逆だと思っている。

県の職員だけ知っているのではなく、常に情報を共有して市町村の職員と一緒に考えるべきだと主張してきた。同じように役所だけが知っていていいものではない。住民に正しく伝え、もしもの時にすばやく対応していただくことが何より大切だ。

○6月2日 6:00

長靴を履き、現場ら向かう住民の皆さんも既に2~3人現場に着ておられる。「おはようございます。昨日は徹夜で工事をしていましたね。一生懸命に皆さんやってくれて安心していますよ」そんな声を聞く。早速斜面に入る。また新しい亀裂を見つける。枯れ枝を立てて目印を付ける。墓地の前で、相道寺半在家の諏訪神社で無事を祈って帰宅する。